

**平成20年度 第1回教育企画・人材育成委員会 運営部会
議事録（案）**

日時：6月11日（水）15：00～18：00

場所：土木学会2階 F会議室

出席者（敬称略）：川島、道奥、利穂、池田（豊）、小谷、吉川、幣守（記）
（欠席）：池田（駿）、井上、都丸、依田、古木

議案

1. 委員長（部会長）挨拶
2. 平成20年度教育企画・人材育成委員会検討方針（案）
3. 平成19年度工業関係高等学校土木系学科・コースで学ぶ生徒の実態調査まとめ及びアンケート結果から見た高専土木教育の現状
4. 教育論文編集準備小委員会からの報告
5. 平成20年度委員会予算
6. その他

配布資料

- 1 平成19年度第4回委員会議事録案
- 2 平成20年度教育企画・人材育成委員会検討方針（案）
- 3-1-1 平成19年度工業関係高等学校土木系学科・コースで学ぶ生徒の実態調査まとめ
- 3-1-2 アンケート結果から見た高専土木教育の現状
- 3-2 生涯学習小委員会 平成20年度活動計画案
- 3-3 第1回教育論文編集準備小委員会 議事録案
- 3-4 J S C E 2 0 1 0 一 覧 表 ～ 目 標 ・ ア ク シ ョ ン プ ラ ン ・ 担 当 部 門 ～
- 4-1-1 平成20年度教育企画・人材育成委員会予算案
- 4-1-2 平成20年度教育企画・人材育成委員会特別予算枠申請受領結果
- 4-1-3 土木学会高専版「Civil：シビル」の発刊準備

<議事及び審議内容>

1. 川島委員長（部会長）挨拶

2. 平成 20 年度教育企画・人材育成委員会検討方針（案）の説明（川島委員長）

（概略、意見その他）

（1）現状認識

- ・ 平成 19 年度に委員会構成の充実を図ることにより、現在の委員会構成は土木系学生、社会人の各世代と土木に関係ない一般学生、社会人に対する教育対応が可能な体制が整備された。

（2）今後の教育企画・人材育成委員会における検討方向

- ・ 土木という学科名称の消滅という現状からの土木系学科の今後の方向
- ・ 優秀な学生の関心を土木に引き付けるための、建設産業界、土木系教育機関の方策検討
→建設業界の企業にキャリアパスを明確にしている企業が非常に少なく、学生が自分の将来像を描きにくい傾向にある。
- ・ 建設産業界のニーズと土木系教育機関のシーズのバランス問題
- ・ 海外に通用しうる技術者養成と高等教育内との位置づけ
- ・ 初等中等教育において土木の正しい魅力を伝える為の方策と効果
- ・ 技術継承問題に対して土木学会からの退職の始まった団塊世代への活動の場の提供

（3）平成 20 年度の重点的検討項目と達成目標

- ・ 教育研究論文集第 1 号の発刊
- ・ 土木学会高専版「Civil : シビル」第 1 号の発刊
- ・ 大学・大学院の進学、就職動向に関する実態調査実施するための新規小委員会の立ち上げ
→過去は実態調査はルーティン作業として行っていたが、いつの間にか消えてしまった。
- ・ 生涯学習小委員会の初等中等教育学習支援特化に伴う名称変更及び飛躍的な学習支援事例を増やすための「協議会」の設立
→国土交通省だけではなく、地盤工学会等に呼びかけ組織する「協議会」は建設系 CPD 協議会をイメージしている。今年度準備会を立ち上げ協定を結び、来年度は協議、再来年度から稼動というスケジュールを考えている。
→名称変更については、案として「初等中等教育学習支援小委員会」に改名を考えている。

→現在のメンバーで活動に限界があるのであれば、協議会立ち上げのための小委員会を新規に発足する事も考えている。

→各教育委員会に直接PRするルートがなかなか見つからない。大元の文部科学省は敷居が高く、交渉は困難と考える。

→教育委員会は地域性が強いので、支部と教育委員会とのレベル整理が必要（整理担当：吉川委員）

- ・ 本委員会活動にある、「市民、行政との連携、協働と社会教育等への貢献」に対する有効な取組の検討

→具体的にはNPO等との連携を検討していく。

- ・ 本委員会が検討すべき基幹的課題に対する各小委員会を縦断した検討の実施とこれを核とした報告書の主要部分の教育研究論文集への紹介

→親委員会の方針に沿った小委員会と自由に活動する小委員会があってもかまわないが、基本的には親委員会から発信する方針に沿った活動が望ましい仕組みであり、親委員会と小委員会の方向乖離修正の議論の場が親委員会会議と考える。今年度中に各小委員会を縦断した検討実施の核を教育研究論文集へ投稿予定している。

3. 平成19年度工業関係高等学校土木系学科・コースで学ぶ生徒の実態調査まとめ及びアンケート結果から見た高専土木教育の現状の説明（川島委員長）

（概略、意見その他）

- ・ このような実態調査は非常に有効であり、大学、大学院の同様な実態調査の実施と分析は是非必要であり早急に対応したい。
- ・ 高専の予備校化の弊害がやはり存在するのではないかと？

4. 教育論文編集準備小委員会からの報告（道奥副委員長）

（概略、意見その他）

- ・ 2008/5/27に開催された第1回会議の議事録の報告
 - 委員会のメンバーが学から多くバランスが悪い構成となっており、実務者となりうる産からのメンバーの参画を検討している。
 - この論文集には、報告書に近いレベルの論文が投稿される可能性があるが、一般的な論文のレベルに限定すると論文が集まらない可能性あり。主張があれば論文とみなすという考えもある。
 - 論文か報告かの判断として、現在投稿予定者からタイトルと概要をまずは早急に報告してもらい、検討協議してみる。
 - この論文集への投稿のインセンティブを明確する必要があると考える。

→土木学会論文集と本論文集との調整役として、現在編集委員でもある飯塚先生（神戸大学）に打診中である。

→10 ページ当り 2 万円の投稿料を想定しているが、料金アップ等の再検討が必要。また、その収入の使途も再検討要。

5. 平成20年度教育企画・人材育成委員会予算案の説明（利穂幹事長）

（概略、意見その他）

- ・ 高専、生涯、教育論文小委員会から増額申請があり、一律 16 万予算に対して 9 万アップとし、この 3 小委員会の予算を 25 万とした。
- ・ 12 月に再度予算見直しを考えている。

6. その他

- ・ 次回親委員会の日程
第一候補日：8月21日（木）14:00～17:00
第二候補日：8月18日（月）14:00～17:00